



「SNS一中ルール」

校長 黒田 宏一

台風の接近を気にしながらの開始となった本年度の2学期ですが、467名の生徒とともに新たなスタートを切ることができました。保護者・地域の皆様には、2学期もお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、9月13日（火）に生徒会朝礼が行われましたが、その席上、1学期から取り組んできた「SNS一中ルール」が決定したことが発表されました。思い起こせば4ヶ月前の5月に生徒会本部が「SNS一中ルール策定委員会」のメンバーを募り、10名の委員でスタートしました。その策定までの取り組みは次の通りです。

- ① 一中生はどのようにSNSと関わりがあるのか、使用状況等のアンケート調査。
- ② アンケート結果に基づき、また「SNS東京ルール」をモデルに1回目の学級討議で各学級が「一中ルール」の素案作り。
- ③ 策定委員会が各学級の素案の集約と事前学習（講演会）での学びを元に第1案を作成。
- ④ 第1案に対する保護者アンケートを実施。
- ⑤ 第1案の各項目について生徒が理解を深めるために、2回目の学級討議を行い意見（賛成・反対・修正等）を集約。
- ⑥ この両者（生徒、保護者）の意見を元に策定委員会が第2案を作成。
- ⑦ 中央委員会において第2案、さらに修正を加えた第3案について審議（否決）。
- ⑧ 第3案の各項目に具体事例を加えた第4案を作成し、中央委員会で審議（可決）。
- ⑨ 中央委員会で可決された第4案の各項目について全校生徒による採決。
- ⑩ 「SNS一中ルール」決定の報告（9月13日生徒会朝礼にて）。



この間、2回の学級討議と3回の中央委員会を開催し討議には20時間弱を要しました。また、予定では1学期終業式にルール決定の宣言を行うことにしていましたが、第3案の第5項目「返信がなくても気にしない。」が否決され、2学期まで決定が延期されることとなりました。「（メッセージの）受け手だけのことを考えた文であり、送り手のことも考えなければいけない。」というのがその理由で、⑧の通り具体事例を6項目全てに追加し、よりわかりやすい第4案を策定することが求められたのです。そこで第5項目には

「○SNSを使う際には相手のことを思いやったやり取りをしよう。事情があって返信できない場合もあります。」

○相手への思いやりに欠けるやりとりはやめよう。」

が加えられました。「相手」すなわち「受け手・送り手」の両者に対する理解を求めることを示したのです。SNSを「負のイメージ」からだけで捉えるのではなく、「プラスのイメージ」からも生徒はしっかりと考え理解していたことに大きな感動を覚えました。

また、策定の取り組みは、多くの期間・時間を要しました。ですが「SNS一中ルールを『画に描いた餅』にしてはいけない。生徒一人一人が考え、深め、自分たちのルールとしてしっかり理解し守っていきたい。」との大きな願いが込められているからこそ、策定委員会が原案を示すのではなく、各学級で素案を作成することから始めるという手法を取ったのです。さらに、保護者にもアンケートをいたでくことでその意見や思いをしっかりと理解できたのも大きな学びとなりました。そして、⑩の生徒全員に賛否を問う採決（各学級で9月8日に実施）では、全ての項目でほぼ9割以上の賛成をもって決定されました。これまで推進役として粘り強く取り組んできた策定委員会の委員長始め10人の生徒に心より「策定（決定）おめでとう。」と言いたいと思います。

先行きが見通せない現代社会にあっても、その社会を創り出していく子ども達に求められているのは、これまで学び習得した知識・技能をもとに、思考力・判断力・表現力を高めながら、主体的に自分自身や社会に生かしていくこうとする態度です。今回の「SNS一中ルール」策定の取り組みはそのモデルの一つとなったはずです。この体験をきっかけとして、さらに主体的に学ぼうとする生徒、課題解決に積極的に取り組もうとする生徒の育成に取り組んで参ります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。